週刊新聞 直言

●遺族扶助料の爭議

木下尚江

遺族扶助料の爭奪は今や軍國社會の裏面に通ずる一般的問題たらんとす、

記者は嘗て養家より離縁の訴訟を受けたる一壯丁が一たび召集状を手にするに及びて斷然自ら離縁を快諾し、己が生まれたる實家の姓氏に復して出征したる滑稽的悲劇を見たり、彼は養父母及び己が妻の爲に嫌厭せられしなり、離縁の内談を受けしも之を承諾せざりしなり、養家に於ては勝訴の見込あるに非ざりしも已むを得ずして訴訟を起すに至りし也、開廷一二回、而して召集令來りぬ、彼思へらく一旦軍に赴かば元より生還を期すべからず、斯くて我戰死せば我血液の代金たる遺族扶助料は我を嫌厭する妻と其父母とを潤はさゝるべからず、如かず實家に戻りて實父と弟妹との爲に之を遺さんにはと、斯て彼は進で離縁を承諾したりし也

今や戰勝國の外觀燦然として萬歳の喝采都鄙に普きの時、看よ、名譽の戰死者の遺族の間には其「扶助料」を圍んで嫁舅相爭ふもの如何に多きかを、其の法廷の問題となれるもの亦た既に尠なからざるべし、世上の君子之を罵て曰く戰死者の血未だ乾かざるに遺族早くも利を是れ爭ふ、豈に死者の光榮を辱かしむるものに非ずやと、或は然らん、然れ共吾人の此の問題を見る、不幸にして彼の諸君子の如く單純なること能はざる也、

遺族扶助料の爭議には少なくも二個の大論點を包藏す、

(一)人生の經濟的不安

今日の社會に於て稼人一個の生死は直に全家族の生死を意味す、故に扶助料の爭議は此の不安至極なる經濟社會に於ける寧ろ必然の結果に非ずや、何となれば遺族は皆な食はざるべからざれば也、而して彼等をして食はしむべく扶助料は餘りに不足なれば也、彼の扶助料爭議の醜體を見て直に貪婪不義と攻撃する聖人君子に告ぐ、今一歩問題の眞相に進みて眞個の病源を探究せよ

(二)現代の倫理的矛盾

今日流行する遺族扶助料の爭議を見るに舅姑對嫁女の問題ならざるは無き也、遺族扶助料は第一に戰死者の寡婦に下賜せらる、爰に於てか舅姑は嫁女を逐ふて之を奪取せんと欲する也、淺薄なる社會の同情は年少寡婦の上に濺がれて、舅姑の無慈悲を詰責するもの、如し、吾人は總て之を非とするものに非ず、然れ共滔々たる世論尚ほ未だ大に足ざる所あるなり彼等は姑舅對嫁女の爭議が當世の道德對法律の爭議たることを顧みざれば也、

世上普通の倫理に曰く、日本倫理の大本は忠孝に在りと、故に子孫は先づ一切を舉げて之を父祖に奉せざるべからずして父祖は又た他に先ちて之を要求するの權能ある也、然るに遺族扶助料の法令に從へば同扶助料は主として寡婦を目的とし次に遺兒に及び、寡婦なく遺兒なき塲合に於て始めて老親に及ぶ也、若し忠孝主義の倫理よりすれば、遺族扶助料は先づ老親を目的とすべき筈なり、舅姑が之を嫁女より奪はんとする必ずしも直に不義と云ふべからず、

然らば之を如何にすべき乎、吾人は彌縫の名案を有せざる也、而かも之を論ずるもの他なし、世人をして「名譽」の遺族扶助料が惹起する爭議の醜陋に鑑みて、現社會及び家庭の中心に潜伏する禍機を察知し、兼ねて根本的改革の切要に想到せしめんと欲するに在り

●歌

罵らば罵るまゝに道を説けよ、低きにつかぬ水や世にある。

情わらば人はつれなき弱き子の、機おり歌に涙なからめや。

魔の柽に破れんものか我が命、泣くにはつらき情愛とく母。

錆ぬぐふ腕をのづから力滿ちて、思はずも空に太刀振りかざす。

梅さけど弱きは餓ゆるものと聞く、春を笑むべき御世とおぼすか。 (関野學牛)

くろがねの牢屋の中は寒けきに、尙いや寒し風な引きそね。

罪のなき人を入るべき牢屋ありと、思ひしもへば涙し流る。

白妙の雪つもりたる麥畑の麥にかも似る吾が兄子よ兄子。 (星山安)

翼ありて人を咀ひに天降りせり、魔は魔と語る更たけし眞夜。

たれこめて現まぼろし魔と語る、咀ひは利きぬ、この夜この時。

細けれど腕に血潮はたぎるなり、我れ革命の斧は捨てじな。

革命の理法とや君、血にわらず、筆舌人の心射るに在り。 (有香)

利根川に白帆の影も見えずなりぬ、千九百五年旅順落ちし頃

何の幸ぞ我れ全能を君に見たり、かくて大御代永遠に榮えん(壹公に與ふ)

馬車にして只半錢を君に忌むか、不運の命よし我れに寄せよ(めしひのを丐を憐む) (無名氏)

●平和の風説

平和の風説天の一方より來る、是れ風説也、事實に非ず、然れども吾人は此風説を喜ぶ

風説も由て來る所あり、之を必要とする者ありて來る、之れを希望する者ありて來る、之れを期待する者ありて來る、而して一人風説を傳へ、二人之れに和し、五人、十人、百人、千人、萬人、之を傳へ之に和するに至つて、風説は遂に事實とならずんば已まず、故に吾人は甚だ此風説を喜ぶ

世に平和來らんとすと聞きて、慷慨する者あり、忿怒する者あり、鋭意熱心に之を掩藏し、若くば打消さんとする者あり彼等が平和の風説を嫌忌するや、蛇蝎よりも甚し、吾人は其何の心たるを解する能はず

如何に連戰連捷すと雖も、兵の兇器にして、戰ひの危道なるは、何人も否む能はす、日に數千の生命を奪ひ、幾百の寡婦孤兒を生ずるは、何人も否む能はず、吾人は速かに、一日一刻も速かに、平和の風説が事實とならんことを希ふ

議會政黨は戰爭の爲に何等の苦痛を感ぜす、文士論客は戰爭の爲めに何等の苦痛を感ぜす、傍觀すれば足れり、煽動すれば足れり、盲從すれば足れり、讃美すれば足れり、而して金儲けすれば足れり、彼等一身の無事太平の爲めには、飽まで平和の風説を排斥すべし

然れども身を滿洲の風雪に曝せる數十萬の壯丁の父母や妻子や兄弟姉妹は旻天に號泣して、平和の速かに來らんことを祈れるを知らずや、苛税を課せられ、不景氣に苦しみ、寒さに凍へ、飢に頻せる哀哀たる生民は、日々夜々に、平和の速かに來らんことを祈れるを知らずや

THE CHOKUGEN.
(meaning 'speaking straight-forwardly.')
SOLE ORGAN OF JAPANESE SOCIALISTS.
Issued every Sunday.
Communications addressed to The Heiminsha, Tokyo.
Vol. II. Tokyo, February 26th, 1905. No. 4.

SYMPATHY BETWEEN CAPITALISTIC GOVERNMENTS.

As reported already, we had received many socialistic pamphlets from Russian comrades in America and Switzerland for distribution among the Russian war-prisoners in this country. Our Military Department also had received the pamphlets of the same kind from the revolutionary socialists in Switzerland, but the Department is reported to have refused to distribute them among the prisoners. It is clear that the patriotic officials thought that it is not right for a government to help the movements of the conspirators, even though they are of the hostile country. The capitalistic Government, it seems to us, has more sympathy for a fellow capitalistic government than for the proletarians of its own country, even while making war against it.

CHINESE STUDENTS AND JAPANESE POLICE.

Of late revolutionary idea has remarkably prevailed among the Chinese students in this country. Although most of them do not yet come to the socialistic idea still they have been well imbued with the democratic tendency, through which they mean to regenerate the old Empire. The Japanese police authorities, who are said to have been requested by the Chinese Minister to Japan, watch over not infrequently the meetings of these aspiring young men, interfering with them in various ways or sometimes even dispersing them. It reminds us of the fussy German police, who, in compliance with the request from the Moscovite government, make strenuous endeavour in suppressing every movement of the Russian revolutionalists in Germany.

GOVERNMENT SPIES IN THE ARMY ARSENA

It is needless to say that the Army Arsenal is one of the largest factories in Japan and the grievances of the laboring class are mostly raised from this corner of the community, while the socialistic idea is also fast gaining foot there. Since the news of the big strikes in Russia, the authorities appear to have been so greatly troubled that they at once ordered hundreds of government spies to work in disguise in the institute together with the workmen, by way of cautioning against.

A propos, it may be stated, the workmen of the Uraga Dock yard, 300 in number, went on strike some time ago demanding the increase of their wages. The revolutionary idea as well as strike sentiment seems to be traversing through the world from one corner to another.

COMRADE FLEISCHMANN.

Comrade Fleischmann of America, who had been here for a short time in the spring of last year, has now come again to see us. He is this time going to China on some business. He will stay, he says, for a long time in China and Japan.

本紙は日本社會主義の中央關機也!!!

(電話本局三二六二番 平民社)

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●大審院の判決

平民新聞第五十二號事件の上告に對し大審院は廿三日午後二時を以て

本件の上告は之を棄却す

と最も簡單なる宣告を爲せり、即ち控訴院の判決通り確定となれり、即ち西川光次郎氏は輕禁錮七個月、罰金五十圓に處せられ、幸德傳次郎氏は輕禁錮五個月、罰金五十圓に處せられ、曩に差押へられたる國光社の印刷器械は沒收せられたる事となれり、噫!!

●幸德西川二氏の入獄

西川、幸德二氏の裁判の確定したることは前項記載の如し、想ふに二氏は一兩日の中を以て入獄するなるべし、吾人は政府より罪人の名を下されたる二氏に對し、所思を陳ずるの自由を有せざるが故に、玆に此事實を報導するに止め、敢て忌諱の言を爲さゞるべし（廿三日記）

●大光明の前途

友よ、同志よ、兄弟よ、吾人は君を送つて泣く者に非ず、吾人は只君を送つて一種悲壯の感に打たるゝのみ

友よ、同志よ、兄弟よ、吾人は君を送つて怨む者に非ず、吾人は只君を送つて氣運推移の跡を見るのみ

友よ、同志よ、兄弟よ、吾人は君を送つて決して失望する者に非ず、吾人は只君を送つて大希望大光明の前途を想ふのみ

天寒く霜嚴し、されど梅花は其間に咲けり、行けよ君、幾百同志の双眸は君が行く後姿の上に注げり

内外時事

●皇室と人民（間の爭訟）

注意すべき質問書は代議士神崎東藏氏に依りて衆議院の案上に置かれたり、曰く

天皇が絶對に司法權行政權の上に立たせ給ふは我邦固有の國體なりとす然るに近時御料局長男爵渡邊千秋は司法裁判所に對し皇室に關する事件の審判を求めたる事例あり而して司法大臣も亦之を是認するの意見を發表したりと聞く、政府は皇室を以て司法裁判所の被判權に服從すべきものとなすか

而して此質問書提出に至りし由來は、岐阜縣御料地と接近せる民有地が偶ま抵當として一債主の手に入りしより該債主は地方裁判所に請ふて右地所の境界を正し置きたるに端なく御料局と境界線の葛藤を生じ其結果御料局官吏は自己に不利なる裁判官及び御料局小吏を陷れ彼等をして免職又は轉職せしめたる上、更らに人民を相手として訴訟を提起し而して一方には　天皇の御名によりて不利の證人を要迫する等穩かならざる擧動を敢てせるが爲めにして本問題の議會に現はれんとするや、政府の狼狽は甚しく直ちに原敬大岡育造、大石正已の三人を首相邸に招きて右質問書提出防壓の交渉に及びしが當時桂首相は該事件に對し政府に於て相當の處分を爲すべきを誓ひ提出者に向て右の次第を含めて慰撫する所ありしにも其後政府は何等の處分を施さす之に加へて該質問書提出斷念の風說議院内に傳はりしより玆に提出者の憤激を招き遂に昨日の議會に於て公然提出を見るに至れり又右質問書に添へたる理由書を見るに左の如し

我國體に顧ずに　天皇の神聖不可侵たる對絕無限にして夫の外邦の君主の或は其私權上の關係に於て臣民と對等の地位に立つものと斷じて同一視するを許さず故に我邦現行の法制上皇室の人民に對し又は人民の皇室に對する訴訟あるを規定せず熟く皇室典範の規定を案じ又裁判所構成法の法條を閲するに特に皇族と人民間の訴訟の管轄を東京控訴院已上と定めたるに拘らず皇室に對する訴訟に付ては何等の規定を設けず是れ我國法上斯る訴訟の成立を想定せず隨て之を裁判すべき機關なき明證なりとす然るに近年御料局長は所管の皇室御財産に關して訴訟を通常裁判所に提起し裁判所も亦之を受理して普通訴訟手續に從ひ既に辯論及び判決を經たるものあるのみならず今現に岐阜地方裁判所民事部に繫屬する一訴訟に於ては原告たる御料局長の代理人其訴訟の性質を問はるゝに及び代表資格に於て所有權を主張するの訴なる旨を答へたり此答辯は是れ畏くも御料局長が上御一人を代表して訴訟を提起したるものなりと言ふに外ならず而して當該裁判官は尙平然該案件の曲直を裁判せんとして其審理を進行し加之司法大臣は該件に關し御料局長の行爲を是認するの意見を發表したるの形跡あり本員等之を聞て恐懼措く所を知らず若し通常裁判所が皇室より人民に對する訴訟を受理し之を審理判決するを得るとせば人民も亦皇室を被告として通常裁判所の判決を受くるを得べきは當然にして皇室と人民とは司法裁判上對等の位置に立ち恐多くも皇室は裁判所の命令に依り強制を受くるは勿論別段の明文あらざる限り總ての法令は人民と同じく皇室にも適用せらるゝものと爲るべし事玆に至らば其結果の我國體に影響する所實に言ふに忍びざるものあり然るに輔弼の大任を辱うする政府當局者に於て漫然此重大の事態を看過するは非常の失體なりと謂はざるべからず是れ本員等が質問に於て政府は前記の事例を以て合法にして且つ國體に觸るゝ所なしと爲すの意なるや否やを問はんと欲する所也

嗚呼御料局長は上御一人を代表し財産所有の權に關して人民に對して訴訟を提起せる乎、嗚呼皇室は元より神聖なり、財産所有權も亦神聖なり、而して司法裁判の權も又々神聖なり、神聖ならざるものは獨り平民のみ、吾人平民不神聖の筆もて漫に神聖のことを言議することを得んや、謹んで政府の答辯如何を待つのみ

○模範村長歡迎會

自治協會は全國自治の模範と認められたる靜岡縣稲取村前村長田村又吉、宮城縣生出村長尾四郎右衛門、千葉縣源村長山本八三郎三氏を去廿日夜華族會館に招待して歡迎會を開けり、席上田村氏の談話は尤も聽く可きものあり

私共天保時代の篤教育者の農民の方針はどうであつたか其物の有樣はどう云ものであつたかと云ふを先づ以て申上たいのでごす、私共は農業は人一人の力のみでは出來るものではないと信じて居りました即ち農業は天地人の三力に藉つて始めて結果を得るものでごして如何なる良い種でも人のみの力で發芽するものではごせぬ、天地人揃つて始めて用を爲すものでありまして人が天地の化育を助けて成就するものでごすから人たるものは好く事と物を愛して天鑑地德に酬ゆる……一分時間たりとも天地の德に報ゆることを忘れましては農業者とは云へない、先づ天保時代の農業者の理想は斯んなもんでした

▲夫でその主義で天地の化育を參して參りましたが御一新以來明治の世となりましてからと云ふものは學理も應用しなければならぬ農業者も忙しくなつて參りましたが、天保時代の農業者の眼で見ますると云ふと、どうも農業の……業は好く出來て居つても天德地德に報ゆると云ふ農業心が薄らいで來たやうに思はれます、即ち百姓は器械の代りに動く動物であると云ふ風に見做されて來ました

彼れ又曰く

▲農業を改良し、物産を發達させ、それで村が盛んになられえとは不思議です、何故だらうと考へましたが、これは教育を以て人間の心の物産を發達させることに氣が附かれえからです、さう思つて見ますとどうも教育は學校の門から外へ出て居れえ、生徒は學校語と家庭の語と他所行の語と三段に語を使ひ別けるので御座います、これはいけましれえ、農事と教育とは縄見ていに撚り合はせなけれアならんだと考へました

教育は學校の門より外に出です、何ぞ其痛切なる

▲他の事は存じませんが、私共のやうな百姓が何か目に見える功績を擧げやうと致しますには、どうしても十年か十五年は掛りますで、私が心ある人達と相談をしまして、農事と教育とを一筋の縄に撚り合はせやうと企てましたのは、抑も二十六年の一月で御座います、今では世間から模範村など〻云はれるやうになりましたが、實際は一つとして人の模範になりさうな功績が擧つて居りません、御恥しいこつて御座います

自治協會を組織せる有位の人、有爵の人、富あるの人、學あるの人、此一朴實なる老翁の言を果して如何にか聞けるや

○政治家と資本家

曾禰大藏大臣は、第四回國債募集に就き例に依て資本家に願求する所あらんが爲め、去廿一日東西の重立ちたる銀行家を官邸に招待したり

▲會する者主人側にて桂總理、坂谷大藏次官、水町若槻、荒井各局長等、又銀行者側には澁澤を始め松尾日本銀行總裁、相馬正金頭取、園田孝吉、安田善次郎、添田興業總裁、豊川良平、田中源太郎、島村久、三崎龜之助、大谷嘉兵衛、小山健三、池田謙三、瀧兵右衛門、馬越恭平、岩下淸周、神野金之助、志立鐵二郎、町田忠治、左右田金作、高橋勸業總裁等の三十餘氏

曾根氏先づ

▲開戰以來内國債を發行すること三回何れも國民の熱誠と金融の樞軸を握る諸君の盡力とに依り毎回好結果を收めたるは當局者の最も滿足する所なり而して今や第四回國庫債券募集の時機に入り諸君の盡力に期待する所切なり其條件の如きは經濟上の趨勢に鑑み成るべく民間の希望を容れ前回に增したる好結果を收めたければ諸君の意見を申出られたし

と述べ、桂氏も同樣、哀訴する所あり、澁澤氏は來賓を代表して一場の挨拶を爲したるが猶ほ銀行者は翌廿二日三井集會所に會し『六朱九十圓七ケ年の償還にして一億圓、銀行手數料として千分の五』と決定して當局者に申し送りたりき、見よ誰か資本家なくして戰爭を爲し得る乎、誰か戰爭の背後に資本家なしといふ乎

○桂、野田、大倉

內閣總理大臣桂太郎氏が、陸軍大臣たりし當時、野田豁通が經理局長たりし當時御用商人大倉喜八郎をして請負しめたる旭川師團兵營請負工事は、不當の高價なりしこと明白となれり

▲會計檢査院は之が不當なる旨を決したり、陸軍省は一たび之を自認したり、然るに此決算の衆議院案上に置かるゝや陸軍當局は忽ち前言を飜へして不當に非ざるを辯し、曩きに之を自認せしを以て [illegible] 經理局長の責に歸し待命者を出さしめたり

大倉某が陸軍省の御用を勤めて常に巨萬の奇利を博し居れることは萬衆の明知する所也、桂、野田と彼との關係に就て醜怪なる風說は常に世間に流傳せる所也、果然此大破綻は生ず、貴衆兩院は如何に此責任の所在を明かにせんとする乎、國民は如何に此責任の所在を明にせんとする乎、吾人は『時局』てふ二字の爲めに斷じて之を暗昧に付し去るを許す可らず

○社會主義の學校

社會主義の學校は紐育に於て創設されたり、第一回講演は去る一月十日（火曜日）晚プレボールト館に於て開かれ、三月末に到る迄は每週火曜日晚同所に於て講演さるゝ由、講師學科等の樣子は次の如し、

モリス、ヒルクイット氏は四回に亘りて、社會主義思想の發展と、運動の實際的進步との兩方面より、社會主義の歷史を講ずる筈、氏は其修養と經驗に於ける久しき實地的活動を重ね來りたる人なれば其講ずる所は同志聽講者を利すると又少なからざるべしヘンリー、エル、スロボーディン氏も同じく四回に亘る講演に於て「社會主義の哲學」アルセルノン、リー氏は五回に亘りて「經濟學」ジョン、スパルゴー氏は六回に亘りて「社會問題の上に於ける社會主義の摘要」と題し、何れも有益なる講演ある由、最後にヒリク、イツト氏は「未來の國家」と題して二回の講演をなし、之を以て本學期は閉づらるべしと云へり尙又本學期は創始早々の事とて、其組織の甚だ不完全なるは免るべからざる所なりと雖も、來學期に於ては組織的講義制度を設けて、各所に開講すべき計畫ありといふ

日本に於ても早く此種の講演を開きたきものならずや

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

内外時事

○露國平民の勝利

露國の革命運動は一時政府の武力の爲めに下火となりたるやの觀ありしも、そは只表面の現象にして、裏面の運動は爾來愈愈盛んなるものあり、セルジ太公と稱する現皇帝の伯父を暗殺するに至つて、彼等の氣勢は最も高まり來れり、而して皇帝も終に多數平民の威力に屈し、國會を開設するに決せり、廿二日發のルートル電報に曰く

△露國の國會　露國はセムスキソボル即ち國會を召集するに決したり、其期日は多分詔勅を以て三月四日頃に定めらるべし

吾人は露國平民が終に民主政の第一歩を勝ち得たるを祝せざるを得ず、而して之を得んが爲に彼等の注ぎたる血と命との多大なるを見て、深く彼等の勇氣に服せざるを得ず

○露國革命黨に對する同情

露國今回の革命運動に對しては世界各國の社會は到る處に多大なる同情を表し居れり、米國の『ウォーカー』新聞、紐育に於ける狀況を報じて曰く

△露國に於ける革命運動は今や多大の興味を以て、世界の視線の焦點たらんとし、恐怖の光は各邦の君主と貴族と治者との眼に發し、被治者と勞働階級とは希望と讃歎とを以て之を環視せり、されど恐らくは露國々内を除きて、紐育東部の人氣程多くの興味を湧せる所は他にあらざるべし、何となれば、茲には嘗て露國專制の犧牲者たりし無數の男女と、露國を放逐せられたる猶太人とが多く隱れ家を求めつゝあればなり

△過去二ヶ月に於ては、露國海陸軍失敗の報紐育に傳はるや、同地に於ける同志の喜び一方ならず、何となれば露軍の失敗は露國人民の自由と進歩との敵たる露國專制の亡滅を致すの日の速に來るべきを意味すればなり、而して彼等は實に斯くの如くに感ぜり、即ち彼等の期待する所は、茲に承認せらるべく、又彼等が同志幾多の男女が幾星霜の間、飢寒と放逐と苛法と牢獄と死との苦惱に耐へて、革命の爲めに戰ひたりし効果を望むを得べきなりと

△されど現時露國に於て行はれつゝあるが如き事件は、實に革命の端緒に過ぎずして、之が成効は未だ充分に期せらるべきにあらざれば、今にして吾人は全力を盡して此事業を助けざるべからず、而して又現時に於ける事件は單に一個の政治的革命に過ぎざるを以て、更に進で經濟的革命の道を開かざるべからずとは、彼等の間に一般に承認されたる所なりとす、是を以て近來盛に會合は開かれ、團體の態度を明かにし、且つ革命運動の基金は盛に募集されつゝあり、月曜日晩に於けるクリントン會館が滿員の爲め門を閉されたるが如きは、實に未曾有の事なりとす、而して當夜は五錢の入場料すら拂はれ、募集金員一千數百圓を得たりき、又去月廿六日晩には露國社會民主黨はグランド、アメリカン、ホールに於て大會を催し、英語、露語、猶太語及び獨逸語を以て數番の演說あり、而して各國の同志の集まる者亦甚多かりき

○我國の癩病患者

去十六日衆議員の傳染病豫防法中改正法律案の委員會に於て提出者山根正次氏は我國の癩病患者に關し左の如く言へり

吾國に於ける癩病患者の總數は十萬人以上に達し之が爲めに二十三年以降六箇年間徵兵檢查に於て不合格となりし壯丁三千九百六人に達し殊に三十三年度に於ける各師團管下の同病不合格數は第一師團十九名、第二師團四名、第三師團六名、第四師團五十一名、第五師團四十四名、第六師團百六名、第七師團十五名、第八師團四十二名、第九師團三十八名、第十師團三十九名、第十一師團四十八名、第十二師團五十五名、總計五百三十五名（不合格總計千人中の廿三に該當す）なりとす斯の如く本邦は癩病の多き實に世界に冠絕し國家の一汚辱なるに拘はらず、當局者に於て未だ何等の方法を講ずるとなきは國家に對し不親切なり云々

是れ豈に驚く可き現象に非ずや、吾人は深く此不幸なる患者に同情を表すると同時に、社會全體の健康の爲めに傳染豫防の方法宜しきを得んことを切望する者也

○更紗職工の同盟罷工

府下の更紗形附職工一同は更紗問屋に對して賃錢引上げの請求を爲し其結果同盟罷工を爲して交渉中なりしが、問屋方にても遂に二割五分まで增額するに決し和解したり

○那威社會黨の勝利

那威に於ける吾人の同志は、最近の議員選擧に於て、非常なる勝利を得たり、即ち

△クリスチヤナに於ては六萬四千二十八の有權者中に於て、三萬五千百四十七の投票あり、其中にて保守黨、自由黨、民政黨、禁酒派、社會民主黨等、數多の黨派に分立せるに拘らず、社會民主黨は其得點九千五百十七に達し、之を前回即ち一千九百〇一年の選擧に於ける四千五百に比するに實に倍數以上に上れり

△バールシエンに於ては、保守黨、自由黨を合せたる總數四千八百七十一といふ最大多數に對して能く二千三百七十四票を得たり

△トロンドヒームに於ては、保守黨二千五百四十三の最大多數に對して、社會黨は二千〇〇八の多數を得たり

○長老ガポンの人物

紐育府の美術評論家クリスチアン、ブリントン氏は曾て露國に留學し其の社會狀態に精通するを以て名ある人なるが、露都近時の慘劇に關し、劇中の大立物ガポンを熟知せりとて曰く

「ガポンは一八三九年ポルタワの赤貧なる農家に生れ、今年六十六歲の老僧なるが、余は露國滯在中斯る魔力ある修道者を見たることなし、幼少の頃はウヰツテの如く田夫野人に伍し牧羊の業を執り居たるに、其天性の穎敏は友人をして其僧院に入りて苦學すべきを勸むるに到らしめ、中年寺院の生活を嫌むに到れり、爾來彼は最も意を露國社會の狀態に用ひ、社會主義論の研究に專念なりし爲め、說く所悉く該主義に胚胎し、爲に破門の厄運に遇ひしことあり、近年諸大都に於ける勞働者間の名望隆々として揚がり、官憲嫉視の標的となりつゝありしが、終に今回の蜂起を統率し聲名頓に世界に喧傳さるゝに至れり、余は彼が曾て其低音にして而かも徹底するが如き音調を以て壯烈なる說教をなすを聞き、其容貌の古怪なるに思ひ合せ、歷史中の挿畫にある古豫言者に酷肖せりと想へり、彼や今何れの地に在るや詳にせざるも、其十字架を捧持せし爲め銃丸の犧牲とならざりしは事實なるが如し

○英國の失業者問題

英國に於ては失業者問題いよいよ重大となり來れり、失業者は隊を成して諸都市の中央を行進し、ソツプ施行所、救助金募集、其他の慈善法は種々計劃され居れり、社會黨は此間題の爲に、臨時議會の召集せられんとを要求し、屢々集會を催し、請願書を提出し、此機を外さず傳道に從來し居れり、勞働黨の代議士ケア、ハーヂー氏は『失業者問題』と題する小冊子を發行し、種々應急の方案を提出せるが、其主なる方案は「都市の雇人の勞働時間を短縮して少くとも八時間と爲すべし、さすれば現在の無職業者の多數を收容するを得べし」といふに在り

●ルイズ・ミツシェル小傳

△佛國勞働者の女神と稱せられたるルイズ、ミツシエルは、急性の肺炎に罹りて佛國馬耳塞で斃れた。彼女の華々しき、終始一貫せる勞働運動の生涯は、最に西川君が平民新聞第三十四號に紹介した通りであるが、近着の『レーボア、リーダー』に、稍々委しき彼女の傳記が載せてあつたので、多少重複する處はあれどそれを茲に譯載する。

△彼女は、佛國ブロンクウールの古城に色々の動物を飼育して樂みとして居た一貴族と、其の侍女との間に出來た私生兒で、その生れた年は千八百三十年とも云へば、三十六年とも云はれて居る。天性慈愛深き彼女は非常に動物が好きで、幼年の頃は常に猿、鹿、猪、馬、牛、獵犬、梟、鴉、蝙蝠などを友として古城の內に遊び戲れて居たが、成人して後も貴族的な處は少しも無く、終始一貫の平民で、常に勞働者の味方であつた。彼女が貴族の血を享けて生れながら、斯くの如く終生勞働者の爲に働いたのは、固より彼女の慈愛心が然らしめたものではあらうが、一は彼女が革命的熱情を其の母方の祖父より享けたが爲であらう。

△彼女は年少しく長じて小學教師となつたが、教授の始め終りには必らずマルセイユの歌を高唱させて居たので、革命思想は其の腦中に次第に深く根蔕を下ろして、智力の發達するに從つて、終に公然たる革命黨となり、千八百七十一年コンミユン（巴里の一揆）の起つた時には、兵卒等と共に街上を馳驅して傷者の看護に盡力し、國民兵の軍服を纏ふて自ら戰鬪した事さへもあつたが、事成らずして捕はれて軍法會議に廻はさるゝや彼女は元より少しも罪の自覺を有せざる事とて、昂然として裁判官の前に立ち、若し放免せらるゝに於ては幾度にても同一の事を爲すべしと公言し、陪審官に向つて自分を死刑に處せよと請求した。其自ら信ずる事の深くして、其の意氣の旺なる洵に今の無氣力にして何等主張なき有鬚男子をして愧死せしむるに足る。

△彼女にして若し放免せられたりとせば、必らず彼れ自ら公言したるが如く、唯だ政府に對する復讐と反抗とのみを勞働者の間に說き廻りたるなるべきが、彼女は放免せらるゝ事も無く、又死刑に處せらるゝ事も無く、其の黨與と共にニユー、カレドニヤに流された。

△獄中にあつて彼女は自己の眼前に現はるゝ總ての物――貓、鼠、小鼠などを友として居たが、彼女はその間に於て、古來未だ曾て見ざる奇なる少年讀本を著した。而して又た其間に、幾度か特赦せらるべき機會は來つたが、彼女はそれに依りて少しも動かさるゝこと無く千八百七十九年に將に特赦せられんとしたるも、コンミユンの關係者一同と共にするに非ずんば、己れ一人恩典に浴するを欲せずとて之を拒絕した。其後間も無く一般の特赦が行はれて、千八百八十年には彼女は再び巴里に在つた。

△其後ルイズ、ミツシエルは、眞に革命の傳道者として其の生涯を初め、屢々捕縛され、禁錮されたが、それが爲に少しも其の熱烈の氣象を失ふ事なかりしかば、終に佛國を追はれて倫敦に逃れ行き、其處にては諸外國人の兒童の爲に一の學校を建てんと盡力し、又た屢ハイド公園内に開かれたる集會に於て演說したりしが、故國の空の忘れ難くやありけん、其頃健康の痛く衰へたりしにも係らず、再び革命運動を開始せんが爲めに佛國に歸りたるが、今や忽ち其の訃を聞く、嗚呼悲い哉。

△彼女は極めて巧妙なる音樂家にて、其の作詩の手腕亦凡ならず、幼年の頃、一の短詩を作りて其の當時追放せられ居たりしユーゴーに送り、ユーゴーはその返禮として裝釘美々しき自作の小說『ノートルダム、ド、パリ』を送つた事があつた、それが緣となつて、其後此の二人は友人となり、ユーゴーは彼女の貧困を憐んで、常に補助を與へて居たが、彼女は又たそれを悉く他の貧民に與へて、自分は何時も相變らず貧乏暮しをなして居たとの事である。彼女は又た極めて孝心深く、其の母に對しては死に至る迄奉養少しも怠りなく、演壇若くば街の一隅に在つては、四海同胞の大義の熱烈なる辯論者であつたが、己の住宅に在つては、常に最も溫和なる、最も愛すべき婦人であつたとの事である。

（次號にミツシエルの肖像を載せる）

●天皇陛下より酒肴料

我々は本年の紀元節に勿體なくも天皇陛下より酒肴料として各自に金十錢を下賜された、併し此十錢の金を如何に使用して可なるものなるやに就ては誠に困りつゝあり、然るに現社會を救濟するに努めらるゝ處の貴社基金として之を使用すれば、金高は少額にても益する處は比較的大ならんと考へたるに依り、四名分四十錢郵券にて送ります、御受納あらんことを希望します

○○○　平民舍

●雜誌品隲

（二）『獨立評論』

▲民友社の諸才人の、過去二十年間に於ける處世の徑路を點檢するに、吾人は其間に於て、實に溢るゝが如きの趣味を覺える。

▲先づ蘇峰先生がア、した譯になり、次に三叉秀才が陸奥大伯より西園寺陶庵侯に往き、首尾よく政友會の新智識となり、マンマと衆議院議員になり、次に古谷久綱君が伊藤帝室制度調査局總裁の下に何やらとなり次に深井英吾君が松方大藏大臣の祕書官となりたるが如き大小こそあれ、何れも一流の筆法と見受られる。

▲而して一方には、湖處子先づ去つて宗教界に浸し、停春樓主人遲々として春色を惜み、蘆花氏獨り晚成して思潮の流れ稍滔々の趣きあり。

▲此間、右に往かず、左に往かず、一種の異彩を放つて隱然重きを爲す者、實に我が山路愛山君である。

▲愛山君信州に在ること五六年、人は田舍に老いると云ふに、君は田舍に其才を練り、其學を深くした。第一の『獨立評論』は、長柄の槍を以て信州から東京の文壇を突いた樣なものであつた。

▲偶々日露戰爭が始まつて、『獨立評論』が『日露戰爭實記』と早變りしたのは、少しく人をして意外の感あらしめたが、間もなく君は信州を去つて東京に歸り、そして今茲第二の『獨立評論』が生れたので、愈よ是で山路愛山の名が再び東京の文壇に立つ事となつた。

▲『獨立評論』發行の序に曰く『獨立評論は名詮自稱、獨立の評論なり。五尺の小身、天地の間に神明と其心との外、恐るゝ所なく、憚る所なき、文人の獨力經營に成るものなり』又曰く『獨立評論は固より、政府の爲め、政黨の爲め、富豪の爲めに戰はんとする文人あるを厭ふ者に非ず。賴朝に廣元あり、桓公に管仲あり。富豪の爲めに其所謂成功を助け、政黨の爲めに其所謂政綱を發揮し、政府の爲めに其所謂經綸を成さんとす。是れ固より尊敬すべき紳士の事業ならん。されど獨立評論は不敏にして此の如き紳士の行徑を學ぶ能はず』見よ愛山が他の民友社の諸才人と其撰を異にする所あることを。

▲『獨立評論』第一號。內容は『東京市政論』『社會主義評論』の二長篇と『現代思想史に於ける基督教の位置』二頁と『雜記』一頁とのみ。而も首より尾に至るまで悉く愛山氏一人の筆に成る。其の自負の高さ、其精力の强さ、眞に獨立の名に背かずと謂ふべし。

▲況んや君、此雜誌を出だして多く廣告もせず、印刷部數も一千かそこらで、自然に人の來り求むるを待つ所、君が平生の謂はゆる『隱居放言』の趣を示して居る。其文章の既に拘綱の域を脫して、縱橫自在なる俗談平話に歸したる所、亦是れおのづから長者先生の風を示して居る。

▲主義に就て云へば、愛山も亦是れ一個の社會主義者である。只彼れ多く世故に熟し、情偽に通ずるが故に、直ちに起つて理想を追ふとを爲さゞるのみ。然れ共彼も亦野心なきに非ず、『獨立評論』の隱居放言ばかりでは我慢の出來ぬ時が來るに相違ない。其時にこそ君の眞の力量が文壇以外に現はれるであらう。（枯川生）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

英國の膨脹と人民の幸福

(英國勞働運動史を示す)　西川生

(一)國富の增加は事實なり　多數者の生活難も事實也

昨年大藏次官、銀行集會所の新年會席上に於て誇りて曰く

余が明治[illegible]國債に關する事を取扱ひたる時、余思へらく、余の一生間に恐らく日本の國債が一億圓以上となるが如きを見ざるべしと、然るに去る廿七八年には一億五千萬圓の戰爭公債を募集し、而して今回は[illegible]此の額の[illegible]倍に增へ得るなり、日本の國富は意外に增加したるものにあらずや

吾人は財政の事に迂なるもの、大藏次官の言を信ぜざるを得ず、然かり日本國富の大に增加し、日本の國威の大に揚れることは事實なり

然れども吾人は右の事實を認むると共に、何故に日本國民多數の生活難は愈々甚だしくなりつゝあることに注目せざる可らず、左の數個の事實を見よ

▲[illegible]

▲[illegible]

是れ抑も何の故ぞや、吾人は之に就き少しく說く所あらんと欲す

(二)英國の歷史を見よ

其の疑問を解決する爲めに、請ふ先づ英國の歷史を讀ましめよ

十九世紀の初葉、英國が其の膨脹を始めし時、英國の富は年々增加しつゝありし時、英國の貧者の數甚だ多かりき

[illegible]り、然かるに彼の政府は、失業者救濟に就きて何事をも爲さず、[illegible]この勢を起さしめき

茲に於て乎、英國の勞働者は自からの力によりて何事をか爲さんと決心せり、然れども勞働者團結禁止律なるものありて、公然何事をも爲す能はざるより、彼等は秘密に結社して或は工場及び器械を破壞し、或は穀物商の倉庫を破壞せり

▲新たなる騷動[illegible]

▲大戰の政府[illegible]

日本に於ても、今や既に勞働者が將來の一勢力たると認められんとし、戰後新政黨を起さんと目論める某々及び某々等は、其の新政黨綱領の中に、社會改良てふ一個條を加へんとしつゝある程なれば、此際、勞働者にして少しく自覺し、社會主義者の運動にして一層活潑とならんには、兩者結合の力によりて、英國の千八百廿五年卅年の改革の如きもの、日本に於ても行はれんこと必せり

▲千八百廿五卅年の改革後、英國の勞働者は愈々政治運動の必要を感じ、遂にチャーチスト運動なるもの[illegible]

▲千八百五十年代に於ては、英國の勞働者は[illegible]

▲千八百六十年代に於ては、[illegible]

日本の勞働者も其の位地を高めんと欲せば、英國勞働歷史の教ふる所に從はざるべからず

英國の歷史は又、英國が其の膨脹の爲めに、其の商工業を發達せしむる爲めに、農業を犧牲に供したることを教ふ

國家膨脹の爲め、商工業發達の爲めに、英國の農業は犧牲にされ、其の結果農村に貧民續出するに至りしも、政府之を顧みざるより、農民の間に又勞働組合出來、其地種々の農民問題を論議するもの出ずるに至りたり

日本に於ても確かに同樣の現象あり、日本の農民諸君大に心せざる可らず

英國の歷史は又、勞働者の力に依て國の外部に對する行動の高尚となれるを教ふ

伊太利が獨立自由の國とならんとせし時、英國に於て最もこれに同情せしは勞働者にして、此の同情が英國の外政者を動かし、外政者をして伊太利を援助する方針を執るに至らしめたるものなりと、匈牙利の愛國者コスウトに對して英國に於て最も同情を表せしものも勞働者なりと、ポーランドの獨立運動に對して英國に於て最も同情を現はせしものも勞働者なりと、又各國の政治的亡命者に對して英國に於て最も大なる同情を注ぎしものも勞働者なりと云ふ

日本は曩に、淸國の革命家孫逸仙に對して退去の命を下し、今又淸國學生の集會に無用の干涉を試み居れり、他日吾人勞働者が政界の一勢力となるの時は、國家をして斯かる行動を止めしめざる可らず

(三)結論

要するに英國歷史の敎ふる所は、國家如何に膨脹し國富如何に增加するも、勞働者にして自から立て求めざる限りは、勞働者の位地は少しも改善せられざるべしと云ふにあり、故に日本の勞働者諸君も直ちに自ら立て求むる所無かるべからず、國を少數者に私せしむること勿れ、國富增加、國家進步の結果を、平等に凡ての上にわらしめよ

又日本國は世界の一國なれば、此日本國をして世界を侵略するの國たらしめずして、世界に文明を來らすと一部分の働きを爲す國たらしめざる可らず、而して日本國の品位を斯く高尚ならしむる者は、富豪貴族にあらずして勞働者ならざるべからず、何となれば、內に於て自由を愛せず革新を愛せざるもの、外に於て眞に自由を愛し革新を愛する理なければ也

富者天國に入るべき乎

孤劍生

(一)

電燈煌灼として白晝の如き街頭、[illegible]として輝ける寶石、珊瑚、琥珀、瑪瑙、錦繡、朱[illegible]などを纏ひて[illegible]、綺羅[illegible]なる紳士と淑女[illegible]、華美なる二頭立の馬車も見ゆ、之れ何の日ぞ、嗚呼これクリスマスの前日には非ずや、海の外には怨恨なき[illegible]の同胞[illegible]、劍と銃とに相殺戮し、[illegible]高き沙漠に[illegible]、骨肉にて枯草[illegible]温を取るの[illegible]なく、[illegible]の[illegible]を[illegible]して[illegible]に泣く[illegible]なるに、[illegible]の同胞を顧みず、汝等何の[illegible]を以てか至仁至愛なる不和の君イエス、キリストを讃美せんとかする、

(二)

カーペンター嘗て倫敦街頭に立ち、大なる人に作はれて、「勤工場にくさんくの[illegible]、[illegible]貴夫人の[illegible]、[illegible]して曰はく、[illegible]かゝる醜惡なる光景あるべしとは、[illegible]

(三)

汝淑女の誇るべきものなく、才藝の秀でたるものなし[illegible]

(四)

北米の富豪カーネギー致富の要訣を[illegible]して曰はく、忍耐と勉勵と而して基督教的精神[illegible]

(五)

「信ぜよ、さらば救はれん」と言ふか、土砂を混じたる粥諸に可憐なる同胞を滿洲の野に苦しめたる正四位大倉喜八郎や、同胞の[illegible]を搾取せしむる[illegible]日本に於ける基督教徒の中心たる東京青年會館の顧問也、[illegible]は淺[illegible]教會の長老也、基督教界に於ける大立者也、「信ぜよ、さらば救はれん」と言ふか、[illegible]斯の如くんば基督教はトルストイ伯の所謂一種の[illegible]のみ、何の有難きこともなし[illegible]

富者天國に入るべき乎、嗟富者天國に入るべき乎

無政府黨の女傑エンマ、ゴードマン女史曰はく

今日の富豪にして悉く神の國に入るを得べくば、[illegible]大倉喜八郎や澁澤榮一[illegible]、石川五右衞門、[illegible]カール、マルクスの所謂[illegible]人道の[illegible]、汝が天國に入らんとするよりも[illegible]

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●主權發達論

渡邊遜民

●●緒言　予は曩に本紙第一巻第十四號に於て、國家學上より見たる社會主義と題し、國家發達の歴史的結論として世界的國家の實現に到達すべきことを論じたりき、之れ單に予の一私見に非ずして實に今日進歩せる公法學者、政治學者によりて一般に認められたる結論なりとす、されば予は今此斷定を前提として更に主權發達論を作らんとす。

▲●●●國家の發生　ホッブスは原始時代の人類を想像して人類は殺徹たり而して戰爭は不斷の常態たりしと假定し、ルーソーは彼の哲學的空想を逞ふして、初代の人類を以て無限の幸福者なりとなし、契約に依りて生れたる國家の經過に苦しむの惑を懐きぬ、されど之等の者未だ以て剛なりと完しと云ふべからず、吾人を以て見れば、人は如何なる時代に於ても所謂政治的關係より離るべからざりしなり、夫れ人は其種族の爲め夫婦の愛あり、遂に家を爲す、而して家族は既に國家たるの性質を承認せざるべからず、家族に之を元首ありて其首長たりしと、其一たりしことを知らば、常に權力[illegible]たりき、然れども吾人は歴史上の述を常に其始と終[illegible]の帰なきにはあらず、米[illegible]の如き[illegible]の自覺的自由契約の上に成れる國家を除ては、[illegible]は皆歴史的自然の發展に屬するものにして、[illegible]ゲルの謂ひけんが如く、人は人性政治的動物なり、近世歴史派の所謂人性說は之に基く、抑も初代の人類にありては、他の社會に對しては、[illegible]も必ずありき、[illegible]足らざるの[illegible]も必要なりき、同時に自利は生物進化の初一原則として、今日よりも一層多く是認せられ、盜賊も殺人も、姦淫し、强ちも決して罪惡と稱すべからず、而して最強者は之が治者たりき、家長の上に於ける主權は遂に一層大なる社會的組織の首長なる酋長の手に移り、酋長は更に[illegible]、而して次第に其生活範圍は[illegible]せられて遂に現時の民族主義の上に立てる國家を形成するに至れり、之れを以て見るに主權者は其始めより最强力者にして、乃ち主權は最强力に外ならざりき、而して此最强力なるものは、極めて單純なる時代に於ては[illegible]腕力にして發達せる今日に於ては、軍隊たり[illegible]なり、故にチライチケは其著ポリチツクに於て、主權の[illegible]を論じて、政治上より云へば主權は[illegible]にして主權國家（獨立國家）の特徴を具有するにありといへり、然れども今試みて思ふに、吾人に果して絶對的强力なる斯くの如き主權の下に[illegible]遂行し、何時迄も續々諸々たるべきか、[illegible]法理上に於ては政治上の一面のみより[illegible]說明なし得[illegible]となすも如きは、抑々古代專制の[illegible]見ると云はざる可らざるなり、吾人は素より現今主權の一要件が最强力なるべきことを否むものにあらず、當に之のみを以て論斷すべきに非ず、更に其最强力は何れの處より來るに就て一層の研究なかるべからざるなり。

然るに帝王神權說の如き神秘的妄說に就ては暫く之を論ずるの暇なし、今主權者の權力なるものに就て之を考ふるに、初代に於ける强力は常に腕力と狡猾と自利となりしは[illegible]、時代の必然的要求として、單純なる腕力もしくは智力上の最强力を意味したりき、されば主權[illegible]に於ては、最も優れたるものなりき、然るに世の漸く進むや、最高者たるの性質は自ら[illegible]ざるべからず、寧ろ高尚なる新らしき實力は現出せり、而して此新らしき實力とは道德の伴随するものなりき、儒者の王道を說くもの誠に之なり。

▲主權に伴ふべき道德　主權に伴ふべき道德と稱するも敢て異種異族のものたるべきの理なし、嘗て新人の秀才と木下尚江君とが一致せる共通意志とは即ち之にして、別言せば共通に認識せられたる道義上善の標點なりといふにあるなり、斯の如きは實に彼のルッソーが契約說に說ける所にして、主權、强力の神聖にして犯すべからざるは、實に茲に存す、之を外にして何の神聖か之あらんや、マキアベリズムは實に主權道德たる共通意志を無視したるの譏讓に生じたるものなりき、凡そ政治上の議論は、民主的國家にして始めて政治學が基礎とすべき眞の科學的政治組織の對象的事實を供給す（パルガエフの國家學）されば純然たる主權論は、須らく其材料を米佛の如き形式上よりの民主的國家に採らざるべからずと雖も、吾人は主權發達の實相を明かにすべきが爲め、今一例を英國に求めんに、彼は一千六十六年以來、實に多大の變遷をなしたりき、即ち其初め英國王は實に國家にして又同時に政府其者なりき、而して貴族が主權を採るに及びては英王は一の政治機關となり、今日に至りては民主的國家なる英國は其主權實に庶民にありて皇帝と貴族とは政治の一機關たるの觀を呈せりき、斯くの如き主權移轉の際に於ては其何れか主權者たるやは容易に之を認むべからずと雖も、時代の要求と、思潮の默移は何時しか其戴ける金冠と、其纏へる紫衣となして衛表たるの資格を呈するに至らしむるは史上其例に乏しからざる所なりき、されば主權論は決して形式論にあらずして、實質上の議論ならざるべからざるなり、以上は英國に於ける一例なりと雖も、民主的傾向は實に歷史の結題にして、現今歐洲に於ける一般的思潮として慎重なる研究を要せざるべからざるものたるなり、加ふるに將來に於ける世界的國家の實現は又歷史的結論にして、人心の奥底に潜める世界的分子は歷史の各時代を通じて共同の問題はざるものなりき、殊に中世に於ける、封建制度、十字軍、教會、近世に於ける、赤十字事業、萬國平和會議、勞働運動等は其最も著しきものなりとす、されば現時に於ける國家學上の主權論が如何に移り行くべきか、又變らざるべからざるかは、吾人が心を潜めて研究するを要すべき、重要問題に屬するなり。

▲主權の實力は漸次縮少す　世界的國家、現出が國際的自覺によりてなさるべき世界的聯邦たるべきは、現今一般公法學者の認むる所なり、現時國際法上に於て自由契約によりて成れる主權活動の制限は、實に國際的關係より生ずる主權實力の制限なり、されば今後國際關係が益々密接して、其間に聯邦的組織を見るの日果して之ありとせんか、主權の定義も又た自ら今日政治學者の稱する所の如くなるべからざるや明かにして主權の如何に發達すべきやは豫め考ふべからざるには非ざるなり。

▲現今國家學の缺點　現時の國家學は、世界的國家を豫想せざるものなしと雖も、之に伴ふて變遷すべき主權の形式及び內容に就ては、未だ詳かに告ぐる所あらざるは國家學上の一缺點と云はざるべからず、何となれば社會的科學の斯くの如きものに至りては、當に「斯く在り」と云へる對象世界の事實の陳列よりも、更に重要なる責任は「斯く在らざるべからず」と云ふ指導的もしくは豫言的法則の發見にあるべければなり。

●萬國社會黨本部の報告

（アムステルダム大會以後の事務）

▲書籍發刊　大會以後、本部幹事は主として各國社會黨事情及大會議事を內容とせる書籍發刊に從事せり而して既に今日迄發行し得たるは左の六種なり、

1. Les congrès socialistes internationaux. Ordres du jour délégations, résolutions. Paris (1889), Bruxelles (1891), Zurich (1893), Londres (1896), Paris (1900).
2. Le congrès socialiste international d'Amsterdam 1904. Ordre de jour et projets de résolutions dans les trois langues.
3. Compte rendu du Congrès socialiste international d'Amsterdam 1904. Assemblée plénière et sections.
4. Rapports et projets de résolutions sur les questions de l'ordre de jour du congrès international d'Amsterdam.
5. Résolutions en trois langues sur les questions de l'ordre du jour du congrès socialiste international d'Amsterdam (1904).
6. L'Organisation socialiste et ouvrière en Europe, en Asie et en Amérique.

▲通信　本部は各國社會黨に宛て左の四件に關する通信を爲せり

(1) 社會黨の合一に關して佛國社會革命黨より提出せる動議
(2) 各國社會黨の出版に係る新聞雜誌の見本をブレーム大會に寄贈せられたき旨の請求
(3) 本部にて出版せる書籍の定價
(4) ヴェルヴィエに於ける伊國織物職工の萬國的團結の美擧

猶(4)に關しては和蘭及獨逸の織物職工に檄してヴェルヴィエに於ける兄弟の爲めに盡さん事を警告し五十法をヴェルヴィエ組合委員に送れり、

露國社會革命黨は伊國織物職工の歸國旅費として金其外各國代表者に宛て昨年十一月委員會の招待狀と假議事日程を送付して、猶附加す可き點あらば指示せられたき旨請求し、英國社會黨に宛て、ヽは市會議員撰擧の大成功に就き祝賀狀を發せり

▲委員改定　大會以後本部委員は左の如く改定せり

英吉利	ハインドマン (H. Hyndman.)
	ハーデー (Y. Keir Hardie.)
獨逸	ベーベル (A. Bebel.)
	シンゲル (Paul Singer.)
墺太利	アドレル (Victor Adler.)
	スカレッド (F. Skaret.)
濠洲	アイル (Ch. Eyre.)
白耳義	ヴァンデルヴェルド (Em. Vandervelde.)
	アンシール (Ed. Anseele.)
ブルガリア	ハルラコフ (N. Harlakoff.)
	サカソー (Yanko Sakasow.)
丁抹	クヌドセン (P. Knudsen.)
	オルセン (C. M. Olsen.)
西班牙	イグレシアス (Pablo Iglesias.)
	クエヂト (A. G. Quejido.)
佛蘭西	ヴァイヤン (Ed. Vaillant.)
	シプリアン (Am. Cipriani.)
芬蘭	カリ (Y. K. Kari.)
	シルャタ (Y. F. Syrjala.)
和蘭	トロエルストラ (P. Troelstra.)
	ヴァンコール (H. Vankol.)
匈牙利	エルトナル (Jacob Weltner.)
	ガラニ (Ernest Garami.)
伊太利	フェリ (Enrico Ferri.)
	チュラチ (Filippo Turati.)
日本	片山潜
諾威	クリンゲン (Olav Kringen.)
	エッペセン (C. Jeppesen.)
波蘭	ヂアマンド (Herman Diamand.)
	ルクセンブルヒ (Rosa Luxemburg.)
露西亞	ルバノウイツチ (E. Roubanovitch.)
	プレカノフ (G. Plechanoff.)
アルゼンチン	カンビエー (Achile Cambier.)
	ウガルテ (Manuel Ugarte.)
瑞西	フユールホルツ (W. Fürholz.)
	ウエルテル (Weller.)
ルクセンブルヒ大公國	
瑞典	ブランチング (Hj. Branting.)
	ウイツクマン (C. G. T. Wickman.)
セルヴィア	ストヤノウイツチ (V. M. Stoyanovitch.)
葡萄牙	ゲツコー (E. G. A. Guecco.)
北米合衆國	ヘロン (George D. Herron.)

右の內、佛蘭西、芬蘭、匈牙利、伊太利、日本、諾威、瑞典、葡萄牙、ルクセンブルヒ大公國へは本部に於ける代表者の姓名を問合せたれど、未だ其報知なき故、當分大會以前の代表者を以て之に充てたり。又波蘭に只其一派のみ代表者の姓名を報知し來れり。

千九百〇五年一月八日
白耳義ブラッセル
萬國社會黨本部

木下尚江著　▲定價卅五錢

小說　良人の自白

●時代思潮　姉崎嘲風批評

▲木下氏の小說は社會主義の爲めの作である、それ故にその主義の上から批評すべき點は多々ある、然し之を一個の文字として小說として見れば、その作が活きておる、活きておるから又人を動かす力を持ておる▲木下氏の小說は、二つとも（火の柱と良人の自由）その主人公は作者の理想的人物であらしい、餘り主人公を理想的完全の人物としすぎたといふ非難も加へ得やう、又二者は舞臺こそ違へその中に出て來る人物が多く相類しておるとの非難もあらう、然し何れにしてもその人物の活動しておる事、一言一動の中にも一々人物の性格がよく寫されて緊る事、又多くの人物の配合對照とその點からのみ見てもよくついておる事、此等の點は括りのみ見ても小說として上乘の作である著者の筆は實に簡であるが、その簡の中に强みがある、例へば敍景の如き、此等の作には餘り多くないが、その景物が總ての人物と共に躍動しておる、

發行所　平民社

●東西南北より

▲當地に於ても近來社會主義に反對するもの多く相成り候、殊に當地に於て發刊しつゝある「新世界」と稱する新聞の如きは極力社會主義に反對し、社會主義の撲滅を期し居るとの事に有之候他の「日米」と稱する新聞も矢張り反對にて、堂々紙上にて反對こそせざれ、暗默の間に社會主義を撲滅せんと期し居るやの評判に候、ビスマークの鐵腕にすら鎭壓する事能はざりし大眞理を三文記者の痩腕を以て撲滅せん抔とは所謂蟷螂にして山を負はんとする身の程知らずにて笑止の[illegible]無之候（米國桑港數穴生）

▲僕は卅七年第一補充兵として徵せられ、三ヶ月間の教育を受け、數月ならずして物識下命となり、近び當內生活をなすに至れり、然るに僕の中隊のみに社會主義者五名あり、僕の部下にも時々の理に注主義を吹込みつゝあり、社會主義の火は我が軍隊をも燒き盡さずんば止まざるべし（北海道〇〇生）

▲社會主義の迫害は啻に東京に於けるのみならず、今や我が信州の地にも來り申候、小生が主筆たる「信濃評論」は殺に其筋の告發する所となりて、[illegible]は一ヶ月十五日の處刑を受けんとしつゝ有之、之が爲めには社內二派の議論を相生じ、結局小生等は袖を連ねて退社するに至り候、而して多數親友の後援を得て「信州評論」と稱するを發行し、社會主義の旗幟の下に一活動を試みる積りに御座候（信州諏訪竹內生）

▲山に入りて久しく世間の耳目に遠かりて資証の慣子を承らず、久しく御無沙汰せしが、本日深雪ある山路を踏分けて、行程九里最寄の長岡に出で、停車場にてフト直言の廣告札が目に止まつて見れば、的身是れ新しき社會主義の機關新聞ならんとは（越後國[illegible]）

▲去る十一日即ち紀元節の朝、予は老母と二人にて、疑て寵布補充大隊にありし舍弟の出征を送るべく、寺かの錢別を用意して平澤驛に出懸けた、軈て汽車に着いた、舍弟は聲を揚げて予を招いた、予は老母を急き立て車窓近く進み、先づ遠征の勞を謝ひ「予等兄弟は室に耳順の老母を擁して飽迄貧苦と戰ひ、斷じて汝に内顧の患憂からしめん、汝往矣、去年兩弟を滿州の荒地に葬り、今又汝を沙河の戰場に送る、家兄の心情を諒とせよ、而して天若し余等兄弟に福せば、再會の時の期あるべし」と、心置きなく手を握りて決別を告げた、骨肉の情緒に碎されて悲ぼしき大砲に撼れたるべき家弟を送りたるの予は、歸來て、明日の役に一層の主義を戀して長友亭、西兩兄の名譽の戰死に上らるゝを願はず可く、平民社樓上に會合するの光榮を得しが、不幸にも舍弟見送の例會日に吹聞されたる絶緣感覺に促され、今宵は樓上に箱けりて遙ながら欠席せざるを得ざる仕宜とはなりぬ（遠州〇〇〇生）

▲今回同志高畑己三郎君と共に一二階を同志一同の倶樂部とし、自由使用に任する事と定めました、中々見晴しが宜しいです、御着し何方でも御出演の節は是非御立寄を願ひます、御二人までは宿泊も差支がありません（橫濱大和田生）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●通俗社會主義

ブラッチフォード原著　堺枯川抄譯

（四）今の世の仕組の無駄事

前にも云ふ如く、諸君は只生活の爲に苦しんで居る。そして其の苦しんだ揚句が左の三點に歸するのです。

（一）諸君は今一生懸命働いて、樣々の苦勞心配をして、そして碌な暮しをする事は出來ませぬ。

（二）諸君は其實、諸君が今働いて居る三分の一も働けば、今の暮しよりもズット善い暮しが出來る筈です。

（三）所が、諸君は此上幾ら働いても假令ば一日廿時間働いて、富は此地球上に溢れるとも、今の世の中の仕組では、諸君は其溢れる富の中から、決して善き暮しをする事は出來ません。

諸君は是ほど生活に苦しんで居るが、其の謂はゆる生活とは只衣食住の事で、諸君は衣食住の爲ばかりに此生涯の大部分を費して居るのです。

然るに、人間の衣食住は高の知れたもので、衣食住以外、心の樂みや働きは實に廣大極まるものです。

それで大國民と云ふのは、只金が多いばかりでは無く、最も善き男女を有する國民で無ければならぬ。最も善き男女とは最も善き心を有する男女の事です。

然るに、今此國に於ては、多數人民の心は全く耕されずに、荒地の儘にして棄てゝあります。是は鑛山や原野を棄て、置くよりも更に大いなる不經濟で、國家は莫大な損耗をして居る譯です。

そこで私の考へは、體に儉約をして心に餘裕を取りたいと云ふのです。即ち、衣食住の爲に働く事を成るべく少くして殘る時間を快樂と智識との爲に用ゐたいと思ふのです。諸君は今假に一日の中八時間眠つて、十時間或は十二時間働いて殘る四時間か六時間かを下らぬ事に費して居るとして、若し其の働く時間を四時間としたならばドウです、そして殘る十二時間を快樂と學問とに使ふとしたらばドウです。

私は茲に少し、諸君の日常の生活が、如何にも無駄に時間と勞力と金錢とを費して居る事を檢べて見ませう。

假に茲に一町內に百軒の家があるとしませう。すると、其百軒の家に正に一百個の、小さな、不便利極まる、竃があるに相違ない。次に又、正に一百個の、小さな、不便利極まる、流し元があるに相違ない。其外、正に一百個宛の、米櫃、米とぎ桶、鍋釜の類があるに相違ない。そして、正に一百人の細君達が、別々に飯炊をし、掃除をし、洗濯をし、買物をして居るに相違ない。そして其買物の如きは、茶や、砂糖や、味噌や、漬物や、魚や、肉や、何れもホンの少しづゝ、二錢、三錢、五錢、十錢の小買をして、不經濟を極めて居るに相違ない。野菜物などの小賣値段が卸賣値段の十倍にもする事は、決して珍らしくはありません。

それで若し此仕組を改良して、一町內に一個の大きな飯炊所を作り、一個の大きな料理所を作り、一個の大きな洗濯所を作り、一個の大きな食堂を作ると云ふ樣にしたならばドウでせう。そして食料品や何かは、總て百軒分一まとめにして卸元から買入れる事にして、百人の細君達の中から、何人づゝか飯炊番、料理番洗濯番を出す事にして、順番にやつて行く事にしたらドウでせう。私の思ふには第一、總ての費用が幾ら儉約になるか知れず、次に細君達の手が幾ら省けるか知れず、そして家內が幾ら面白くなつて、町內の交際が幾ら睦ましくなるか知れぬ

次に商賣の方の無駄事を今少し考へて見ませう。商賣の無駄事は全く競爭の弊で、同じ樣な店が幾つも〳〵軒を並べて大勢の小僧や、番頭や、帳付や、會計や、種々雜多の手數と費用が掛つて居る。それにアノ廣告と云ふ奴が無駄事の骨頂で同業者を壓倒しようと云ふ競爭の爲には是非とも必要のものではあるが、大きな商店になると一年十萬圓の二十萬圓のと云ふ馬鹿〳〵しい廣告料を使つて居る。そして一體誰がそれを拂ふと思ひます。皆んな其品を買ふ人が拂ふのです、即ち諸君が拂ふのです。然らばドウすれば此無駄事が無くなるかと云ふに、此の商賣と云ふ事を止めれば善いのです。商賣の爲に（即ち賣る爲に）品物を製造する事を止めて眞に人民の用ゐる爲に製造する事にすれば善いのです。商賣が無くなれば競爭も無く、廣告なんども入りませぬ。然し猶其邊の事は後に委しく話しませう

扨、商賣の方なり家內の暮し方なりに於て、右の如き無駄事が無くなり、誰の身の上にも十分時間の餘裕が出來たとすれば、我々は先づ何をするでせう。

智識を求めるのが先づ我々の一ッの仕事です。例へば、肺病の治療法若しくば豫防法が發明せられたら、我々の幸福は何程增加する事でせう。地震の豫防法若しくば豫測法が發明せられたら、何程我我は安心する事でせう。空中飛行器が發明せられたら、何程我々は便利を得る事でせう。其他、智識の領分は殆んど際限がありませぬ。

斯く云へば、己等にはそんな六ケしい學問なんぞ迚も出來ぬと云ふ人があるかも知れぬ。然し決してソウで無い。今日では、普通の人の頭は、まだ丸で開墾せずにあるのだから、それを能く耕したらドンナ美しい產物が出來るか知れぬ。今日では、教育の價が非常に高いので、學問や美術は全く錠をおろされて、金持ばかりが其鍵を持つて居る樣なものです。それで天才のあるエライ子供でも、貧乏の家に生れた者は、皆んな土方になつたり、車挽になつたりして居るのです。

是を思ふと、私は實に腹が立つて堪らぬ。諸君あの貧民窟を見たまへ。善く之を教育すれば、天晴れ國家社會の力ともなり、花ともなるべき、子供や、娘や、男や、女や、それをムザ〳〵無智文盲の間に腐らせて、不義惡德の塊りにしてしまふ。之を國家社會の大體の上から見れば、實に莫大なる損失と云はねばなりませぬ。

私の理想は、總て此樣な損失を無くしたいと云ふのです。

（五）金持と貧乏人との統計

諸君、今度は少し統計を見て下さい。人口總數三千六百萬の此英國に於て、大槪いつでも七十萬の失業者があります。それから乞食の境界に落ちて居る者が八十萬人あります。乞食まで行かずとも衣食の缺乏を告げんとして居る者が八百萬人あります。猶一般に貧乏人と稱すべき者は二百萬人あります。そして全國の收入總額の半分以上は、約一萬人の手に落ちて居ります。全國の土地と資本との殆んど九分九厘までは、約三萬人の手に握られて居ります。勞働者一人の平均收入は一年百七十圓、即ち一日五十錢足らずであります。

猶他の統計に依るに、國家收入の分配を左の如くに見積つて居ります。

國家收入全額	一三、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇円
地代	二、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇
利子	二、七〇〇、〇〇〇、〇〇〇
中等社會の俸給／資本家の利潤	三、六〇〇、〇〇〇、〇〇〇
勞働者の賃銀	五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇

即ち、全國の勞働者は百三十五億圓の富を產出するが、其中で富豪が地代と利子とを四十九億圓だけ取り、又富豪と中等社會とが利潤と俸給とを三十六億圓だけ取り、殘りの三分の一足らずが勞働者の手に落ちるのです。猶之を人口に割當て見れば、全人口の八分の一が八百五十億圓だけを取り、殘り八分の七が僅かに五百億圓だけを取る事になります。猶之を分りやすくすれば、上等及中等社會は一人一年の平均收入が千八百四十圓となり、勞働者は僅かに百六十圓となるのです。（譯者云。是は英國今日の統計ではありませぬ。然し大體此比較上の形勢に變りはありませぬ。之を日本の統計に見ても、矢張り大體の形勢に變りはありませぬ。）

それだけならマダ善いが、諸君、此土地が又極めて少數者の手に握られて居ります。政治家や新聞記者等は善く諸君に向つて『我國』『我國』と云ふが、諸君は『我國』なるものを少しも持つて居ないではありませぬか。英國の土地は英國人民多數の有ではありませぬ。英國の土地は僅々數十萬の富豪の有となつて居ります

（譯者云。我々日本の貧乏人も亦『我國』なるものを少しも持つて居りませぬ。）

●運動基金　收支報告

▲金一圓（第八回）　藤田四郎氏
▲金一圓（第七回）　神田　無名氏
▲金五十錢　牛込　中村時次郎氏
▲金五十錢　麹町　阿部彥次郎氏
▲金五十錢　愛知縣　踊の子
▲金二圓四十錢　京橋新榮町有志十三名
▲金五十錢　神田　河面某氏
▲金二十錢（第八回）　銚子　秋村氏
▲金一圓　紀州田邊　石澤梁洲氏
▲金二十錢　本郷眞砂町　吉川世民氏
▲金五十錢　千葉縣　坂宮氏
▲金一圓　奈良畝傍中學校　大手利八郎氏
▲金一圓　同　今西幸治氏
▲金一圓　牛込　土肥常七氏
▲金四圓（十一、十二、一月分）　四谷　ＳＴ氏
▲金一圓　關水和介氏
▲金四十錢　群馬　堀江湖海氏
▲金一圓　石狩　小田綠三氏
▲金二十錢　岡山　岡村幸三氏
▲金五十錢　仁川　田中牛四郎氏
▲金四十錢　橫須賀　平民會

小計　金十八圓八十錢也（二月十六日より廿三日まで）
▲金十五圓四十二錢（二月三日より九日まで）
▲金三十六圓六十二錢（二月十日より十六日まで）
▲金一千〇〇一圓七十六錢（二月二日現在）
合計　金一千〇七十二圓六十錢

▲金一圓　二月一日龜島町演說會費
▲金三圓三十六錢　二月廿日行德町演說會費
▲金一圓七十二錢　二月十六日玉霞亭茶話會費
▲金一百圓　一月分平民社補助
合計　金百六圓八錢（二月廿三日迄支出）

差引現在　金九百六十五圓五十二錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

同志の運動

▲社會主義演説會（千葉縣）

去十八日午後二時より千葉縣入生村字實田延命寺に於て開會、余は此の演説會に臨席すべく同日朝八時の滊車にて兩國停車塲を出發した、此の日の寒さと云つたら殆んど形容の言葉がない程だつた、殊に成田驛から入生村まで一里の間、田舎道を人力にユラレながら行く間の寒さと云ふものは實に堪へられなかつた余は車上幾度か深呼吸を爲し、幾度か腕を振りつゝ『之れ道の爲めなり』と思ひなどしつゝヤツト我慢した△入生村の同志が其の一室を借りて倶樂部を組織せる氣儘屋と云ふへ着したのは丁度正午で、コゝで晝飯を喫した氣儘屋の主人は六十の坂を越した盲目の老人であるが、仲々元氣な風變りな人で酒など賣りて居るが『現金高賣』と云ふ看板を表に出し又御客が酒に醉つて來ると『モー止めよ止めよ』と云ふてソレ以上は賣らぬソウだ、此の老人余の着くや否や挨拶して曰く『今日は金玉を叩くと金音のする日ですな』と、ソレからコウ云ふ調子で色々の氣焔を吐いた△二時まで氣儘屋で休息して會塲に乘り込み『國家の膨脹と人民の幸福』と云ふ演題で、一時間餘演説した寒くなかつたらモツト來る筈ぢやつたと發起者はコボしたが、兎に角に八十餘名の來聽者を得たので余は滿足した、寒村の御寺なんかで演説して見ると何んだかヒドク年老ひた田舎傳道者になつた樣な氣がした△余の此の日の話は社會主義のゴクの大筋丈けだつたが社會主義は大分聽衆の氣に入つた樣だつた、殊に臨監に來た巡査君の如きはソウダ／＼と云はぬばかりの顏をして聽いて居た、此の近傍の或村の駐在巡査も無名氏から數ヶ月間平民新聞の寄送を受けた結果社會主義者となり、今は『表向では云へぬが社會主義は善いものぢや』などと言つて行いて居るとのことだ△會散じて後相模屋に於て余の爲めに送別懇親會を開いて呉れ之れへは實田の有志二十餘名出席して呉れた、此の二十餘名は皆實田の有力者で、一半は社會主義を信じ、他の一半も少なくとも社會主義には反對せぬ人々なのである、村々が此の入生村字實田の樣になつて來ると面白い△此の夜は同志小川高之助君宅に泊つた、小川君宅は大きな藁葺の百姓家である、余は母の懷に這入つた樣な氣で安眠した△翌十九日朝十時まで話し、十一時成田發の滊車で歸京した、今日は昨日と違ひ温かだつた（西川生）

▲行徳町演説會

行徳町は東京市を隔ること程遠からず、往復も便利であるから、是非一度遊説に行きたいと同志の一人が言ふので、去る廿日同所に演説會を開くことに決した、ソコデ櫻井君は其前日に行つて、廣告の貼札をしたり、チラシを撒いたりする、松崎、岡、加納、齋藤、石川の諸氏は當日午後二時大橋發の滊船にて出發、四時頃行徳町に着いた、開會まではマダ時間もあればとて、汐濱の鹽田など見物し、夕食の後開會した、會塲は舊旅人宿であつた殿樂といふ家である、前夜の降雪で來聽者もサゾ尠からうと氣遣ふた、果して來聽者は六十名といふ少數であつた、併し當町に於てコレだけの聽衆を得たのは餘程の成功だと土地の人はいふた「社會主義は愛なり」（櫻井）「文明と貧困」（齋藤）「働く人の困る譯」（岡）「將來の愛情」（加納）「社會主義の本義」（石川）「文明と勞働者」（松崎）皆無事に演了、當町は明治の世となり、交通機關の發達に伴ひ、其資額殆んど極點に達せし所なれば社會主義の議論は聽衆の肺肝に徹底した樣に思はれた、全く開會せしは十一時、當夜は會塲たる設樂氏方に泊り翌日一同歸京した、愉快なる一夜であつた、四五回も遊説すれば此處にも多少の實を結ぶことが出來やう（遊説者の一人）

▲三人組傳道行商

吾々とても今、現に主義のために働きつゝあるのである、原子生は富士育兒院の爲めに各地を遊説しつゝ、到る處に主義を弘道せんと試み、渡邊生は「平民床」てふ理髮店を開きて晝も夜も絶間なく傳道をなしつゝあるのではあるが、併しまだ／＼かやうなマドロい事では到底駄目である、更に活潑な更に有功な事業に取掛らねばならぬ、さらば如何にして働かんか、山口、小田兩君の範を示したる彼の傳道行商！彼こそ吾等の行くべき道ではあるまいか、ソコで吾々は特に十五圓の資金を以て行商用の車を作り、書類と幻燈器械とを滿載して東京の吾黨本部を後にしようと目論んで居る、深尾生は現に小學教師であるが、此行商中教員間に勸誘して教員勞働組合を作りたいと志して居ります、此際本部から相當の御指揮を仰ぎたく存じます（原子、渡邊、深尾三人組）

▲米國桑港新年小會

一月廿一日（土曜日）午後八時より桑港在留（オークランドをも含む）社會主義者の新年小會をスタクトン街帝國ホテル内の岡田圖書館裡に開く、生憎雨天なりしにも拘はらず、集る者十一名、時刻到るや、先づ一同互に各自を紹介し、夫より各自五分間のスピーチを爲し演説終つて後茶菓の饗あり、其間互に胸襟を披いて社會主義上の議論を鬪はすもあれば、又た時事問題に就て口角泡を飛ばすもあり、頗ぶる愉快の間に時刻の移るを覺へず、和氣洋々の間に散會せしは午後一時半なりき、當夜集れる者左の如し

市川藤一、倉村蓉三郎、岩佐作太郎、大溜信郷、丸岡重光、四條了、鹽澤義男、山崎今朝治、竹内余所次郎、岡繁樹、赤羽一

▲勞働者談話會

去十五日午後二時より京橋區新富座裏某氏宅にて開會四疊半の一間に十三人集まつて快談した、余は一通り社會主義の話もした△來會者中の一人曰く『露西亞の樣な國に於てさへ、勞働者が團結すればアーですもの戰爭でも濟んだら私等も沈默しては居りませぬぜ、大にやりますぜ』（西川生）

▲家賃問題演説會

去十五日夜、京橋區南小田原町二の十八いろは長屋に於て開會、辯士は加納豊、櫻井松太郎の二氏及本社の西川生にして、交々立て『家主が一時に家賃を四割も引上げんとするの不當を鳴らし、更に進んで社會主義の貧民に取り唯一の救主なること』を物語つた、自分等の頭上に直接の問題がある此の際のことゝて彼等は何れも謹聽した、富豪の横暴の止まざる限り政府はイクラ妨害をしても貧民は社會主義に傾聽する、

▲横濱の直言愛讀者に告ぐ

毎土曜日午後六時より社會主義研究會を開く、有志の士は來會あれ、横濱市末吉町三丁目四十八番地、曙會倶樂部

▲岡山いろは倶樂部例會

△時　三月五日午後一時より
△所　東中山下一番地　和栗氏宅
△費　五錢

●白熊兄に

兒玉花外

天の自由と平和を
蒔きしが罪か、國法の
鎖に曳かれ往く君よ、
巣鴨監外、日のうちに
別惜まむ袖ひかへ、
涙の露のひぬまなき
門に消萎ゆれば、闇の人。
風雪つねに烈しかる
胸と胸とに燃ゆる火は
男蝶、女花の戀ならじ、
天地つらぬく人道の
主義に誓ひし血の焔、
鐵の扉や石の壁
あゝ何ありて堰きうべき。
汚濁の世をば鳴き警す
孤鶴の氣息の絶ゆるごと
絞殺臺によしや君
生命の華の凋落む時、
相思隔つか、冥府の闕
吾や血を吐く子規
君し呼びつゝ暗世に叫く。
愁嘆ふるなかれ吾友よ、
南の渚、北の丘
心を寄する同志多み
國の外にも雲の如
舞ひ起つ同胞のなからんや、
流竄七月、秋と共
清軀高歌し歸り來ね。

●直行社

大森の留守番

直言直行といふ成語から考へて見ても直言の發行所直行社といへばチヨクカウシヤと合點の行きさうなものだが世の中には存外分らぬ奴が多い、僕の宅へ直行社の看板を掲げた、所が鐵道に關係ある男が之を直行列車の何かと間違へた、所が或る坊さんは之を左も悉々しくヂキギヤウシヤと讀んだ、夫を聞いて何と思つたか直行社に態々「チアンシヤ」と擬假名を施して來た氣まぐれ者がある

●新刊紹介

▲精神界（五の三）　本誌が故清澤滿之氏の創刊せるものなるは世の既に熟知する所、今や清澤氏亡しと雖も、門下の諸秀才筆を揃へて紙上に活躍す、先師清澤氏の遺鑑をして徇に滿足せしむるに足らん、本號佐々木氏の「佛敎の婦人觀」は婦人研究者の殊に參考すべきものなり

▲時乘（一の一）　伊豫道後湯之町白雲居より發行するもの、橋惠靜氏の經營する所なるべし、紙數僅かに八頁、甚だアツケ無き感はあれど、簡潔勁勁の文、人意を引くに足らん

▲經濟新聞（十六）　日本橋蠣殼町其社
▲國學院雜誌（十）　麹町飯田町五の八國學院
▲法律新聞（二六一）　日本橋本銀町其社
▲精神界（五の二）　北豊島郡巣鴨村浩々洞
▲日本之小學教師（七の七四）　神田表神保町國民教育社
▲日本人（四の五）　神田雉子町政教社
▲南信評論（一二六）　信州諏訪町其社
▲時乘（一の一）　伊豫道後湯之町白雲居
▲婦女新聞（二五〇）　牛込東五軒町其社
▲國學院雜誌（十一の二）　麹町區飯田町五國學院
▲時乘（一の一）　伊豫道後湯之町白雲居
▲東京孤兒院月報（六〇）　赤坂青山南町孤兒院
▲たきもの（一の三）　四谷新堀江町燃料研究會
▲弘道（一五五）　麹町區飯田町日本弘道會
▲中央農事報（五九）　芝公園全國農事會
▲護法（二）　芝露月町鴻盟社
▲十善寶窟（一七九）　小石川關口駒井町目白僧園
▲文庫（三）　本郷西片町内外出版協會
▲東京經濟雜誌（一二七二）　京橋彌左衛門町其社
▲六合雜誌（二九〇）　芝三田ゆにてりあん弘道會
▲世界（九）　麹町區紀尾井町帝國日報社
▲活宗教（十四）　芝二本榎一丁目其社
▲上毛教界月報（七六）　高崎市宮元町其社
▲上田新聞（九）　長野縣上田町其社

●社會主義婦人講演

三月五日（日曜）午後二時より例の如く平民社樓上に開く、會費金五錢、豫定の講演左の如し

△解放時代の婦人の危險　木下尚江
△源氏物語に於ける女性　菅谷岩子

注意　▲▲男子は必ず婦人に同伴せられて御來會あらんことを希望す

●平民社に於る今日の會合

▲社會主義研究會　例の如く今廿六日午後六時半より平民社樓上に開く、豫定の講演左の通り、會費金五錢、何人にても來會隨意

△明治の政教關係史　木下尚江
△性慾論（續）　堺利彦

●平民社より

枯川生

▲今朝起きて見ると、思ひがけなくも雪が積んで居た、齋藤君は朝早くやつて來て、裏の庭に小さな達磨を揃へた。朝飯の後、僕は西川、志津野の二君と共に日比谷公園に雪見に行つた。兵隊が來て雪投をやつて居たので、チヨツト興を催した。ツヽジの木に雪が奇麗に積んで、丸で花の咲いた樣になつて居るのを見て、是れの滿開の時にはこゝら一面が燃える樣になると云ふ話が出た。去年のツヽジの頃は、僕は巣鴨に居て、百穗君の繪葉書に依つて僅かに其の燃ゆるが如き色の一片を見る事を得たが、今年は僕が之を見る代りに、秋白二兄は之を見る事が出來ないのだ、噫。（廿日記）

▲前號の寫眞は、背の高い方が小田君で、低い方が山口君です、右左がハツキりせぬから念の爲めに書きそへて置く、

▲齋藤兼次郎君は、其大禿頭と漆の樣な鬚とが、どこやら無政府黨の首領クロポトキンに似て居る。木下尚江君は、其頸の少しコケた所などが、何となく獨逸社會黨首領ベーベルに似て居る。

▲先日群馬縣の同志長加部寅吉氏が遊びに見えた。氏は多年篤な病人で居るが、病間曾て此主義の實際を忘れた事が無い。吾人は切に氏の健康を祈る。

▲此頃平民社には語學熱が盛んになつた。幸德君の佛語獨習は此間も書いた通り。西川君は獨逸語に志して居る。二君の巣鴨行は外國語修業の爲と云つて善いかも知れぬ。是まで我々は皆英語ばかりしか出來ぬので困つて居たが、是からボツ／＼七年の艾を貯へるより外は無い。社中で獨逸語の出來るのは神崎君ばかり佛蘭西語の出來るのは社友の大杉君ばかり。こんな風に皆がエラクなるのだから、僕等だつて何ぞ一ツやらずばなるまい。石川志津野の二君と共に獨逸語を神崎君に習はうかとも話して居る。それから松岡文子さんも少しジツカリ英語をやりたいと仰る延岡爲子さんも晩學ながらも英語をやりたいと仰る、神崎君も獨逸の外に英語を始めたいと云ふ。そこで是から平民社の夜は外國語の塾の樣になるかも知れぬ。（廿一日記）

▲昨日米國の同志フライシユマン氏が突然やつて來た。氏は去年の春暫く加藤時次郎氏の家に滯在して、お互に大分懇意になつて居たのだから、久しぶりで半日話し暮した。氏は今度廣州で上海、天津、北京の方へ向ふよし。

▲此四五日は非常な寒さだ。二兄は丁度此の寒の底に行かねばならぬのか。（廿二日）

名士肖像　平民社繪端書

マルクス（近世社會主義の祖）
エンゲルス（近世社會主義の祖）
ラサール（獨逸社會民主黨建設者）
ベーベル（獨逸社會民主黨首領）
トルストイ（露國非戰主義の老傑）
クロポトキン（無政府黨首領）

一組六枚定價十錢
郵税五組まで二錢

名士肖像　平民社繪端書

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

上卷第五版 下卷發兌

職分論

要目 曰く陸軍々人 曰く博愛 曰く傳道に於ける勇氣

大阪朝日新聞の評 資辭に曰く我國青年に偉大の感化を與へたる西國立志編及び西洋品行論と同じく國民の德性を涵養し品性を陶冶すべき良書なりスマイルスは昨年九十歳の高齡を以て圓滿なる一生を終りたるが元來躬行實踐の人にして身自ら立志編中に入れらるべき人物なり氏の如きは眞に英國紳士の好模範と稱すべく氏の著書を愛讀する者は親しく氏に接して諄々たる教訓を受くるの感ありて知らず識らずの間に至高の靈化を被むるを得べし云々

中卷第三版○定價各卷金三十錢郵稅四錢宛◎出版元 東京本郷區西片町十 内外出版協會

福田英子女史著

妾の半生涯

▲大阪國事犯の女傑景山英子が自敍傳たる第四版印刷中也
▲本書は今や其名聲や遂に此小島國内に止まる能はずして、今や海洋千里を越えて歐米の讀書界を動さんとす
▲著者の知友獨乙人某は本書を英語に並びに獨語に飜譯せんことを需め來る
▲以て本書が如何に世界同胞の衷心を激動せしめつゝあるかを知らん
▲蓋し本書は世界の婦人に對して其覺醒を迫るの警鐘なり
▲定價三十五錢郵稅六錢▲著者肖像入裝釘美麗

發行所 東京神田表神保町 東京堂

文藝評論

天鼓

田岡嶺雲主筆 定價一冊十五錢 半年分八十五錢 一年分一圓五十錢 注文は凡て前金 切手代用一割增

初號 二月廿日發行 二號 三月十日發行

三主張
俗惡なる功利的傾向を排す
淫靡なる女性的風尚を排す
浮佻なる亡國的文學を排す

發行所 芝區南佐久間一ノ一 文藝社

獨立評論

主筆 山路愛山

▲每月一回三日發行▼
●第一號(二月一日)發行●

目次
●東京市政論
●社會主義評論
●現代思想史に於ける基督教の位置(其の二)
等なり

▲定價一冊八錢郵稅五厘▲半年分四十五錢郵稅三錢▲注文は凡て前金

東京市京橋區南紺屋町八番地 獨立評論社

活版印刷
東京築地 株式會社
國光社
電話新橋 二六九三番 特電話 八八番

新刊豫告

文學博士三宅雄次郎 校閲
文學士 德谷豐之助 松尾勇四郎 合著

普通術語辭彙

定價壹圓參拾五錢 本綴總クロース金文字入 郵稅十五錢

▲豫約價八拾五錢 申込と同時に拂込むものとす
▲期限三月十五日 ○見本あれば二錢券封入申込即時發送す
◎二回拂九拾錢 五十錢を申込の際四十錢を四月十日迄に拂込むものとす

市内豫約所 銀座二丁目 服部書店 神田一ッ橋通 有斐閣雜誌部 本郷四丁目 友朋館 芝三田一 福島書店 牛込通寺町 好文堂 神田小川町 文會堂

發行所 東京牛込喜久井町 敬文社

辯護士 花井卓藏 東京市神田區錦町一丁目二番地 電話本局八八三番

辯護士 卜部喜太郎 東京麴町區上六番町二番地 電話番町六二六番

辯護士 今村力三郎 神田區今川小路二丁目十四番地 電話本局一九四〇番

當社經木事業に付御用の方は、北品川町百四番地(北馬場停車場踏切附近) 當社第一工場事務所へ御照會被下度候 東京市神田區駿河臺 生產社

特許第八一七三號 小清水式輕便印刷器
グラス版
●印刷の鮮麗石版に讓らず
●製版簡易習熟を要せず
●毛筆ペン共に自在なり
●色彩印刷に最も妙なり
發賣元 東京神田錦町一丁目 金陽社

辯護士 高木金之助 東京市日本橋區呉服町六番地 電話本局四八六番

觀世流謠曲趣意書

指南

夫レ謠曲ハ我邦特有ノ聲曲ニシテ高尙優雅謳吟以テ其心情ヲ娛マシメ其身體ヲ養フニ足ル宜ナル哉古來十五德ノ稱アルヤ余家風ニ斯道ノ風敎ニ裨益アルヲ信ジ曩ニ師家ノ承認ヲ得敢テ初學ノ爲メニ觀世流謠曲ヲ敎授シ他日專門樂師ニ就クノ路徑ヲ開キ大ニ之ガ普及ヲ課ラント欲シ今日ニ至ル是之ニ娛樂ト衛生トノ具ニ供スルノミナラズ之ニ由テ以テ柔嘉ノ德性ヲ養ヒ靄然タル和ヲ媒シテ風敎ノ一端ヲ補ハント欲スルニ在リ伏シテ冀クハ有志ノ諸彦微意ノ存スル所ヲ諒シ幸ニ賛助來遊アランコトヲ

東京麴町區有樂町壹丁目五番地 瓢聲庵 土居香海

(來る三月一日誕生紀念號發行)

スヰートホーム

▲社會主義の婦人は讀まざるべからず

●すゐーとほーむは……我國唯一の良家庭雜誌なり
●すゐーとほーむは……家庭改良の卒先者なり
●すゐーとほーむは……淸新なる婦人の好讀物なり
●すゐーとほーむは……夫人令孃の交際機關なり
●すゐーとほーむは……女子學生の好侶伴なり
●すゐーとほーむは……敎育家も亦必讀の雜誌なり

記事 論說、名家談片、家庭小說、問答、美術、音樂、和洋禮式及料理法、育兒家政談、手藝、遊戲の諸欄には各々專門の記者執筆し其他文苑欄には廣く讀者の寄稿を歡迎し時々懸賞文を募集す、

▲社會主義の青年は讀まざるべからず

每月一回 一日發行 定價一部郵稅共金四錢 半ヶ年分二十二錢

發行所 東京本郷區千駄木町一 鳴潮社

淋病せつかち 根治神劑
快麻丸

本劑は一等軍醫正草刈先生の處方に據り藥劑師田所繁松調製せし者にて輕きは一週間如何なる難症にても一ヶ月にて根治せしむる特効保證の神劑なり

藥價(三日分十五錢 七日分三十錢)●十五日分六十錢●一月分一圓

東京市中は即刻配達す ●全國無料送達す

發賣 神田區皆川町一番地 電話本局三千四十番 一志堂藥局

●神經衰弱 遺精早漏陰萎物起力記臆力衰退手淫の害
●陰莖包皮無痛速治療法
●梅毒●りん病●痔疾
●婦人科 ●せうかち ●子宮病 ●血の道 ●月經不順
●地方患者は返信料添へ申込む可し

東京市神田區西今川町三番地 愛生醫院

男女生殖器病專門 内科外科
淚紅醫院
診察無料藥術料任意
院長醫士一瀨鷹一 東京神田連雀町十八 電車萬世橋下

▲本紙定價 一部三錢五厘、廿部前金六十五錢 五十部前金一圓六十錢、郵稅不要
▲廣告料 一行十九字詰三十錢
▲注文 は總べて前金に限る
▲郵券代用 にて御送金の場合は必ず一割增とし成るべく五厘の切手を用ひられたし

發行兼編輯人 原眞一郎
印刷人 山田金市郎
發行所 東京府荏原郡入新井村字新井宿二五五七番地 直行社
發賣所 東京市麴町區有樂町三丁目 平民社
印刷所 東京築地二丁目十一番地 株式會社國光社 電話新橋特八八、新橋二六九三番

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY